一般社団法人 日本独文学会
Japanische Gesellschaft für Germanistik e.V.

ニュースレター2022 春号

JGG-Info-Blatt / Frühling 2022

まえがき

会員の皆様,

　現在の理事会体制になってから 2 度目の Info-Blatt になります。

　理事会のルーティーン業務をこなすのが中心で新たな企画やこれまでの体制の見直しにはなかなか時間が割けないのが現状です。現理事会発足に際して掲げた，理事会の負担軽減とその一環としてのオンライン化の検討を目下すすめているところです。オンライン化については，オンライン化することによる業績向上見込みから多額の資金を投資できる企業とは異なり，日本独文学会のような会費収入のみで運営される団体にとっては財政的に不可能であることが判明しました。引き続きその他の面での負担軽減を検討していく所存であります。

2022 年 4 月 17 日

井出万秀

日本独文学会会長

目　　次

まえがき

ご案内
2022 年春季研究発表会・第 4 回総会のご案内 1
秋季研究発表会について
2022 年秋季研究発表会のご案内 5
Bekanntmachung der Herbsttagung der JGG 2021 6
会費納入について 7
ドイツ語教育部会総会のお知らせ 10
第 48 回語学ゼミナール開催のお知らせ 13
48. Linguisten-Seminar der JGG 15
DAAD からのお知らせ 17
ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ 19
一般社団法人日本独文学会岩﨑奨学金（出版助成）のお知らせ 21

報告
第 19 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果 23
日本独文学会 2021 年度秋季研究発表会報告 24
語学ゼミナール・オンライン 2021 報告 25
日本独文学会研究叢書既刊一覧 31
2021 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告 32
2021 年度ドイツ語論文ワークショップ開催報告 34
支部報告 36
ドイツ語教育部会報告 45
ドイツ語学文学振興会より 48
大学院 Germanistik 関係論文題目 49

あとがき 50

2022 年春季研究発表会・第 4 回総会のご案内

会員各位

2022 年 4 月吉日
日本独文学会

皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

来る 5 月 7 日(土)，5 月 8 日(日)の両日，立教大学におきまして日本独文学会春季研究発表会を開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。なお，総会は 6 月 4 日(土)15:00 より Zoom で開催いたします。総会の Zoom 情報は，5 月中旬，総会資料とともに郵送します。

※本研究発表会ではプログラム冊子の配布を行いません。学会ホームページからダウンロードしてご持参ください。
※参加費：会員の方は無料です。非会員の方は，事前登録をした方にのみ参加費の納入方法をお知らせしますので，4 月 25 日(月)までに参加費 1,500 円をお支払いください。支払った方にのみ，臨時入構証をお送りします

Bekanntmachung der Frühlingstagung 2022 und der 4. Vollversammlung

Liebe Mitglieder der JGG,

die Frühlingstagung der Japanischen Gesellschaft für Germanistik findet am 7. und 8. Mai 2022 an der Rikkyo Universität statt. Wir freuen uns auf Ihre Teilnahme. Die Vollversammlung findet am Samstag, den 4. Juni um 15.00 Uhr via Zoom statt. Der Link zur Vollversammlung wird Ihnen Mitte Mai zusammen mit den Sitzungsmaterialien per Post zugesandt.

※Da es in diesem Jahr keine Print-Version des Programmheftes gibt, empfehlen wir, das Programm ausgedruckt oder in digitaler Form auf einem Ihrer Geräte mitzubringen.
※Für die JGG-Mitglieder wird keine Teilnahmegebühr erhoben. Für Nicht-Mitglieder fällt allerdings ein Teilnahmebeitrag von 1.500 Yen an, der bis zum 25. April 2022 zu überweisen ist.

発 表 者 ・ 発 表 会 場 一 覧

2022年 5月 7日(土) 11:00～18:10					
	A会場（8号館8101教室）	B会場（8号館8201教室）	C会場（8号館8202教室）	D会場（10号館X201教室）	E会場（10号館X204教室）
	シンポジウム Ⅰ	口頭発表:語学・ドイツ語教育	ブース発表	ポスター発表	ポスター発表
11:00～11:10	開会の挨拶（A会場）				
11:20～12:20	ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会（A会場）				
12:30～13:00	ドイツ語教育部会総会(B会場)				
13:00～14:00				Lars Bauer（13:00～14:30）	Axel Harting（13:00～14:30）
14:00～14:35	統治／抵抗の技法（14:00～17:00）	清水 誠			
14:40～15:15		黒田 享	川村 和宏、熊谷 哲哉（14:40～16:10）		
15:20～15:55		Ruben Kuklinski			
16:00～16:35		小西 優貴			
16:40～18:10		ドイツ語教育部会招待講演			

2022年 5月 8日(日) 10:00～13:10					
	A会場（8号館8101教室）	B会場（8号館8201教室）	C会場（8号館8202教室）	D会場（10号館X201教室）	E会場（10号館X204教室）
	シンポジウム Ⅱ	口頭発表:文学Ⅰ	口頭発表:文学Ⅱ	ポスター発表	ポスター発表
10:00～10:35	発話を越えたところに及ぶ文法の可能性（10:00～13:00）	徳永 菜摘野	Manuel Philipp Kraus	ポスター掲示	ポスター掲示
10:40～11:15		網谷 優司	Thomas Schwarz		
11:20～11:55		益 敏郎			
13:00～13:10	閉会の挨拶				

交通と会場のご案内

研究発表会場：立教大学池袋キャンパス　8 号館・10 号館・11 号館
最寄り駅：池袋駅（JR 山手線・埼京線・湘南新宿ライン，地下鉄東京メトロ丸の内線・有楽町線・副都心線，西武池袋線，東武東上線）下車，徒歩約 7 分

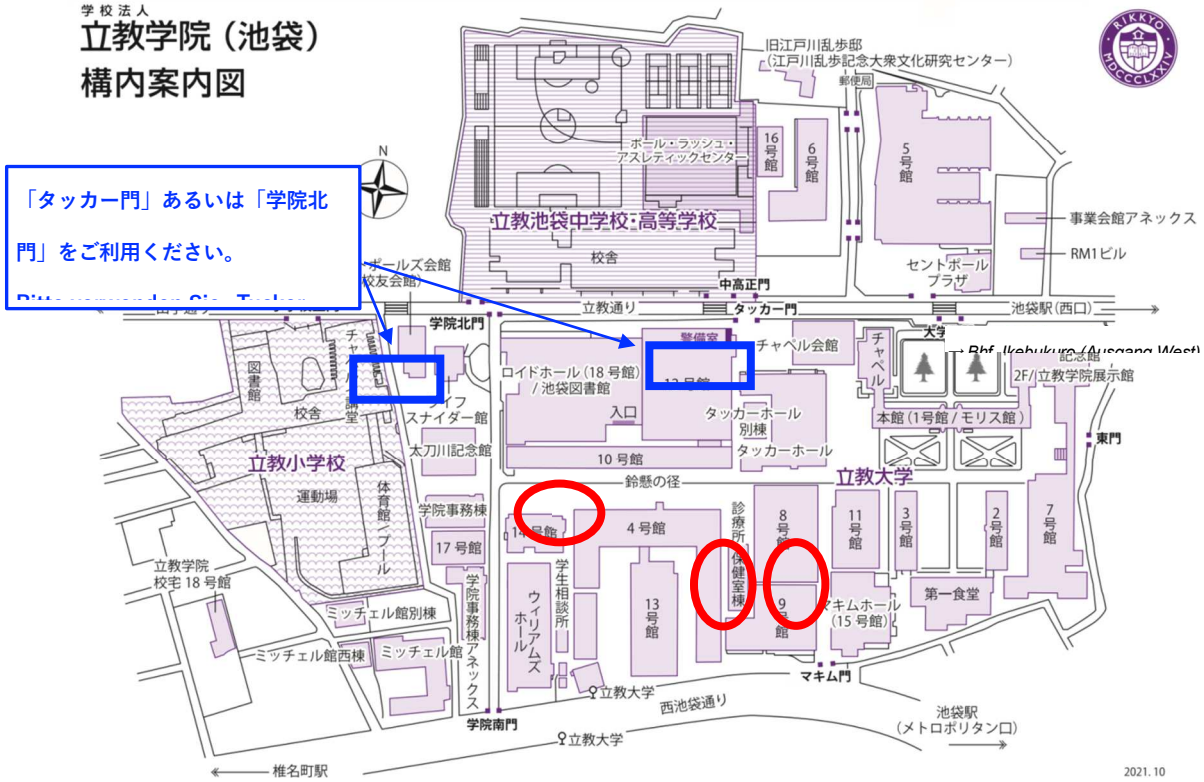
羽田空港から池袋駅までのアクセス：
・京急線を利用：品川駅で乗り換え，JR 山手線・池袋方面に乗車。約 1 時間
・モノレールを利用：浜松町駅で乗り換え，JR 山手線・池袋方面に乗車。約 1 時間
・リムジンバスを利用：「池袋エリア」行きに乗車，「池袋駅西口」下車。約 1 時間

Informationen zum Tagungsort

Die Tagung findet auf dem Campus der Rikkyo Universität in den Gebäuden 8, 10 und 11 statt.
Adresse: 3-34-1 Nishi-Ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 171-8501
Nähere Informationen unter URL: https://english.rikkyo.ac.jp/map/index.html

池 袋 駅	■ JR各線 ■ 東武東上線 ■ 西武池袋線 ■ 東京メトロ ： 丸ノ内線／有楽町線／副都心線 西口より大学正門まで徒歩 約 7分	要 町 駅	■ 東京メトロ ： 有楽町線／副都心線 6番出口より大学正門まで徒歩 約 6分	椎名町駅	■ 西武池袋線 北口よりマキム門まで徒歩 約12分

2021. 10



2022 年秋季研究発表会のご案内

下記の通り，2022 年秋季研究発表会を開催いたします。

期 日： 2022 年 10 月 8 日（土），9 日（日）
会 場： オンライン（Zoom）開催

研究発表をご希望の方は「発表申込書１（申込者情報）」（Excel 形式）をダウンロードし，「発表申込書２（発表概要）」（Word 形式）と共に，日本独文学会ホームページの (https://www.jgg.jp/) 左メニュー「研究発表申し込み」にアクセスし，「発表申し込みフォーム」よりお申込みください。その際，必ず「研究発表申し込み要領（2020 年 2 月 1 日改訂）」をご熟読ください。申し込み審査のガイドラインもそこに記載されています。

申し込み締め切り：2022 年 7 月 3 日（日）（締切厳守）
申し込み先：上記発表申し込みフォーム

2022 年 4 月
日本独文学会理事会

Bekanntmachung der Herbsttagung 2022

Die Herbsttagung der JGG findet statt:

am Sa., 8. und So., 9. Oktober 2022

Online (Zoom)

Wenn Sie sich als Referent*innen bewerben möchten, senden Sie uns bitte das ausgefüllte Antragsformular (Excel-Datei) und Ihr Exposé in Form einer selbst verfassten Word-Datei. Um sich anzumelden laden Sie bitte beides unter **Anmeldeformular** （発表申し込みフォーム）auf der JGG-Webseite https://www.jgg.jp hoch.

Detaillierte Informationen sowie alle notwendigen Upload- und Download-Links finden Sie unter **Referatsanträge** im linken Menü auf der JGG-Webseite (https://www.jgg.jp/).
Der deutsche Text folgt dem Japanischen.

Anmeldefrist: **So., 3. Juli 2022 (strikte Einhaltung der Fristen)**
Anmeldung unter: siehe oben

April 2022
Vorstand der JGG

会費納入について

会員の皆様におかれましては，すみやかな会費納入にご協力いただきありがとうございます。

事務局では会員お一人お一人の会費ご納入に関して，年間を通じ必要に応じてご連絡を差し上げています。その際はご理解，ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また，以下の点をご確認ください。

【会費割引制度】

前年度末までに 80 歳になられた方，常勤職をお持ちでない方，学生の方は，ご本人からのお申し出によって，年会費の割引を受けられます。会費規程をご確認の上，事務局までお申し出ください。

【口座自動振替によるご納入】

口座自動振替のお申込みは随時受け付けています。まだお申込みでない方は是非ご検討ください。申込書をお持ちでない方は事務局までご連絡ください。お申込みくださった時点でその年度の手続き締切りに間に合わなかった場合は，自動的に次年度開始の扱いとなります。その年の年会費は振込にてご納入くださるようお願い致します。

2022 年度振替日は 7 月 1 日（金）ですので，すでにご登録の方は事前に口座残高をお確かめいただけますと幸いです。また，振替口座等の変更や年会費割引のお申し出は 4 月末までに事務局までご連絡ください。振替日は年に一度のみです。7 月 1 日（金）に振替ができなかった場合は，郵便振込をお願いしています。

【郵便振込によるご納入】

口座自動振替をお申込みいただいてない方には，5 月，6 月の間に学会年会費納入のお願いと払込取扱票をお送りする予定です。

以上，よろしくお願い申し上げます。ご不明の点，ご質問は事務局（TEL./FAX : 03-5950-1147，Mail フォーム : http://www.jgg.jp/mailform/buero/）までお問い合わせください。

日本独文学会事務局

一般社団法人日本独文学会会費規程

（目的）

第１条　この規程は，定款第７条の規定に基づき，入会金及び会費の納入に関し，必要な細則を定めるものとする。

（入会金）

第２条　会員は入会金として1,000円を納入しなければならない。

（入会金の納期）

第３条　入会金は，この法人から入会承認の通知を受けた日から30日以内に納入しなければならない。

（会費）

第４条　会員は，次の会費（年額）を納入しなければならない。

正会員	10,000 円
賛助会員	30,000 円（学術交流団体など非営利団体の場合10,000円）

（会費の納期）

第５条　会員は，当該事業年度開始の7月末日までに，会費年額の全額を納付しなければならない。

（会費の減免）

第６条　4月1日現在で常勤職を持たない正会員の当該年度会費は，本人の申告に基づいて8,000円とする。

２　4月1日現在で大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の当該年度会費は，本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は，6月1日までに学生証ないしはそれに相当する証明書のコピーを郵送もしくはファックスで学会事務局に提出することによって行うものとする。

３　4月1日現在で満80歳以上の正会員の年度会費は，本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は6月1日までに行うものとする。

４　会費の減免は申告が受理された年度から適用し，遡って適用されることはない。

５　常勤職を持たない正会員が常勤職に就いた場合は，身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。

６　大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の身分に変更があった場合は，身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。

（使用目的）

第８条　入会金及び会費は次の各号に定める事項に使用する。

(1)　本会の運営

(2)　本会の機関誌等の発行

（細則）

第９条　この規程に定めるもののほか，この規程の実施に必要な事項は，理事会の決議により別に定めることができる。

（改廃）

第１０条　この規程の改廃は，総会の決議による。

附　則

この規程は，２０１９年４月１日から施行する。

ドイツ語教育部会総会・講演会のお知らせ

ドイツ語教育部会総会

日　　時：2022 年 5 月 7 日（土）12 時 30 分～13 時 00 分
会　　場：立教大学池袋キャンパス　B 会場（8 号館 8201 教室）
議　　題：
I　　報告事項
　1）2021 年度活動報告
　2）幹事選出細則の改正
　3）その他

II　　審議事項
　1. 2021 年度決算報告
　2. 2022 年度予算について
　3. 監事嘱任について
　4. 『ドイツ語教育』の J-STAGE 公開範囲について
　5. その他

III　　会員からの意見開陳

ドイツ語教育部会招待講演

2022 年 5 月 7 日，8 日に立教大学で開催される春季研究発表会におきまして，下記の通り，ドイツ語教育部会主催の講演会を実施いたします.

記

講　演　者：真嶋潤子　（大阪大学名誉教授，ケルン大学客員研究員）
講演題目：「日本の外国語教育への「CEFR−CV（CEFR 補遺版）」のインパクト」
日　　時：2022 年 5 月 7 日（土）16 時 40 分～18 時 10 分
会　　場：立教大学池袋キャンパス　B 会場（8 号館 8201 教室）
　　※ケルンからの Zoom 配信（オンライン）

講演の概要

ヨーロッパ域内だけでなく日本も含む広範な地域で，外国語教育の関係者にインパクトを与えた「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」（2001／日本語版は 2004）が欧州評議会 CoE から発表されて 20 年になるが，2018 年にはその補遺版「CEFR−CV」も発表され，弛まぬ歩みを目の当たりにしている．発表者は（大阪大学外国語学部有志グループとして）補遺版の作成プロジェクトに関わる機会も得た．<https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989>

本講演では，「CEFR」と「CEFR−CV」の理念とその目指すところを確認した上で，補遺版「CEFR−CV」について，少し踏み込んで見てみたい．

補遺版では，CEFR にはなかった点や議論や説明が不十分だと思われた点を補足しているが，特に Mediation（「仲介」「媒介」または「架橋」と訳せるが，便宜上「媒介能力」と訳しておく．）について，議論したい．これは，複言語能力に限定せず複文化能力にも大きく関わる重要な概念であり，従来の狭い意味での「語学」には収まりきらない視野で「外国語教育」を捉えることの有効性や可能性を示してくれ，図らずも「移動の世紀ならぬ変化の時代」となった現在の外国語教育を考え直すための道具としても，有益かもしれない．

日本の外国語・言語教育へのインパクトについて考えてみると，2019 年以降の新型コロナ感染症の地球規模での拡大に伴い，外国語教育関係者も，教室内の活動だけを考えていれば良いのではなく，目を外に向ける必要性に直面している．人や物の移動がグローバルに展開していた 2019 年までの時期の後に，移動の制限が否応なくなされ，高等教育機関でも従来のような留学制度をも再考する必要に迫られ，オンライン技術の目覚ましい進展も含め，教育現場にも世界規模で激震が走っているのではないだろうか.「CEFR」も「CEFR−CV」も，ドイツ語教育，日本語教育といった言語によらず，言語教育関係者の「共通メタ言語」としての役割があり，それを活用しない手はないだろう．

CEFR のインパクトが，コロナ禍でも目に見える形で進んでいる事例として，「日本語教育推進法」（2019）の制定を根拠法として，（第二言語あるいは外国語としての）日本語教育の進展・拡充を進めるために，文化庁国語課が「CEFR」を参照した「日本語教育の参照枠」を発表したことにも触れておきたい．（文化庁 2021 <https://www.bunka.go.jp/koho_　hodo_oshirase/hodohappyo/93463101.html>）

講演者の略歴および業績

大阪大学名誉教授，ケルン大学客員研究員．専門は，言語社会学，日本語教育．永年，留学生教育に関わる．最近の主な研究テーマは，移民に対する言語教育と

ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」（2001）とその増補版 CEFR-CV（Companion Volume）（2018，2020）の理念と実践．現在，科研プロジェクトとして「「移動の世紀」の言語教育を考える　―移民統合と CEFR-CV の基礎研究―」を遂行中．最近の主な論文に，「グローバル化がローカルな日本語教育に与える影響について」ヨーロッパ日本語教師会 AJE（2019 年），「継承語教育とアイデンティティ」在日本韓国人教育研究大会予稿集（2019 年 8 月）がある．

第 48 回語学ゼミナールのお知らせ

2022 年 4 月

日本独文学会第 48 回語学ゼミナールを下記の要領で開催いたします。今回は形態統語論分野を中心に，定動詞第二位（V2）現象や格といったドイツ語学における「定番」の問題に対して新しい角度から光が当てられるのと同時に，通常は周辺的な現象として見過ごされがちな, 形式と意味の間に見られる「パラドックス」とも呼ぶべき現象がどのような理論的帰結をもたらしうるか，ということも議論される予定です。また，例年どおり日本側参加者による研究発表も歓迎します。皆様の積極的なご参加を心よりお待ち申し上げます。

※コロナウイルスの状況次第で開催要領に変更があり得ます。学会 HP の最新情報にご注意ください。

記

総合テーマ　Probleme der deutschen Syntax: Wortstellung, Kasus, Paradoxien

招待講師　Josef Bayer 教授（コンスタンツ大学）

※ご経歴や業績等についてはこちらをご参照ください。

https://www.ling.uni-konstanz.de/prof-dr-josef-bayer/

期　間　2022 年 8 月 29 日（月）～ 9 月 1 日（木）　3 泊 4 日

会　場　多摩永山情報教育センター

〒206-0024　東京都多摩市諏訪 2-5-1

https://www.tamanagayama.com/index.php

定　員　40 名

参 加 費　3 万 8 千円（会員），4 万 8 千円（非会員）

※内訳：参加基本料，宿泊代および朝・夕食代

※学生および専任職を持たない若手会員については，所属機関等から出張費等の支援を受けていないことを条件に，参加費補助を行います。加えて，遠方からの参加の場合，旅費の補助も検討します。

※中国・韓国・台湾のゲルマニスト関連団体の方が申し込む際は，略歴および主要業績表を提出してください。参加費は会員と同様です。

申込方法

以下のフォーム（外部リンク：Google Form）にアクセスし，必要事項をご記入の上，参加申込を行ってください。

LS2022 Anmeldungsformular：
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeEEctJNMRf3UvYzb9wvirqI96t0yj1ABQYKlVwcq4T_ix87w/viewform?usp=sf_link

申込締切　　2022 年 6 月 12 日（日）

問合せ先　　語学ゼミナール実行委員会

（linguistenseminar [_AT_] googlegroups.com）

その他

- 参加申込みの承認は，日本独文学会理事会にて行われます。参加者正式決定の通知は 6 月下旬〜7 月上旬を予定しています。
- 研究発表を希望される方は，ドイツ語 250 語程度のアブストラクトを添付してください。上述の参加者決定後，より詳細な発表要旨を提出していただきます。発表の採否は実行委員会にご一任願います。
- ゼミナール終了後, Bayer 教授による講演会の開催を希望する大学を募集します。Bayer 教授からは講演可能なテーマとして, 以下のものが提案されています:
  1) Formale Prinzipien und interpretatorische Lücken: Über den Umgang mit Paradoxien
  2) Was ist Verb-Zweit?
  3) Kasus und Kasusdefizienz in der verbalen und in der adpositionalen Domäne
  4) Deutsche Partikeln als funktionale Köpfe
  5) Modalpartikeln in W-Fragen
  6) Modalpartikeln im Dialekt

  講演会開催をご希望の方はゼミナールの申込締切日までに実行委員会にお申し出ください。その際，可能な限り謝金の支払いをご検討いただければ幸いです。なお，講演会場までの交通費や開催地でのお世話を講演会主催者にご負担いただく場合がございます。詳細はゼミナール実行委員会にご相談ください。また，講演会開催や講演テーマ等の最終決定は，ゼミナール実行委員会にご一任願います。

日本独文学会・語学ゼミナール実行委員会
宮下博幸（委員長）

48. Linguisten-Seminar der JGG
Tokyo, 29. Aug. – 1. Sept. 2022

Das 48. Linguisten-Seminar der Japanischen Gesellschaft für Germanistik wird dieses Jahr in Tokyo unter folgendem Rahmen veranstaltet. Über eine zahlreiche Teilnahme würden wir uns sehr freuen.

*Coronabedingte Änderungen vorbehalten. Achten Sie auf die aktuellen Informationen auf der JGG-Webseite.

1. **Rahmenthema:** Probleme der deutschen Syntax: Wortstellung, Kasus, Paradoxien
2. **Gastdozent:**
   Prof. Dr. Josef Bayer (Universität Konstanz)
   https://www.ling.uni-konstanz.de/prof-dr-josef-bayer/
3. **Termin:** Montag, 29. August bis Donnerstag, 1. September 2022
4. **Ort:** Tamanagayama Information & Education Center
   Suwa 2-5-1, Tama-shi, Tokyo 604-8113
   URL: https://www.tamanagayama.com/index.php
5. **Max. Teilnehmerzahl:** 40
6. **Anmeldung:**
   Bewerbung per Google Form „LS2022 Anmeldungsformular“:
   https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeEEctJNMRf3UvYzb9wvirqI96t0yj1ABQYKlVwcq4T_ix87w/viewform?usp=sf_link
   *Interessenten ohne JGG-Mitgliedschaft werden gebeten, neben der Anmeldung ihren akademischen Werdegang sowie die Liste ihrer wichtigsten Publikationen in PDF-Format nachzureichen. Bei Nicht-Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundschaftlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Nachbarländern ist zudem eine Empfehlung durch ein JGG-Mitglied in PDF-Format erforderlich. Bei Fragen wenden Sie sich an den Organisationsausschuss per unten stehende E-Mail-Adresse.
7. **Teilnahmegebühr:***
   38.000 Yen (bei JGG-Mitgliedschaft oder Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Ländern) bzw. 48.000 Yen (ohne JGG-Mitgliedschaft) sind a.O. zu zahlen.

*In der Teilnahmegebühr inbegriffen sind die Grundgebühr, Übernachtung (Einzelzimmer), Frühstück und Abendessen. Für Studierende sowie Teilnehmer*innen ohne feste Anstellung sind unter Umständen Gebührenermäßigungen und/oder Reisekostenzuschüsse möglich.

8. **Anmeldeschluss:** Sonntag, 12. Juni 2022
   Die Auswahl der Teilnehmer*innen bleibt dem JGG-Vorstand vorbehalten.

Vortragsbeiträge zu allgemein linguistischen Themen

Beim Linguisten-Seminar besteht für die Teilnehmer*innen auch die Möglichkeit, ein etwa 30-minütiges Referat zu allgemein linguistischen Themen zu halten. Für die Anmeldung eines Referats (ebenfalls bis zum 12. Juni 2022) ist die Angabe des geplanten Titels sowie die Zusendung eines Abstracts (ca. 250 Wörter) erforderlich. Die Auswahl der Beiträge bleibt dem Organisationsausschuss vorbehalten.

Zusätzliche Veranstaltung von Vorträgen des Gastdozenten

Wir bitten außerdem um reges Interesse an weiteren Einladungen von Prof. Dr. Bayer für zusätzliche Vorträge an Ihren Universitäten nach dem Abschluss des Linguisten-Seminars. Dafür sind von Prof. Dr. Bayer folgende Themenbereiche vorgeschlagen:

1) Formale Prinzipien und interpretatorische Lücken: Über den Umgang mit Paradoxien
2) Was ist Verb-Zweit?
3) Kasus und Kasusdefizienz in der verbalen und in der adpositionalen Domäne
4) Deutsche Partikeln als funktionale Köpfe
5) Modalpartikeln in W-Fragen
6) Modalpartikeln im Dialekt

Anmeldungen dazu werden ebenfalls bis zum 12. Juni 2022 angenommen. Honorarzahlungen sind nicht erforderlich, aber durchaus willkommen. Unter Umständen kann es vorkommen, dass die Reisekosten zu den Vortragsorten zu Lasten der einladenden Institution gehen. Um Verständnis bitten wir auch dafür, dass die Entscheidung über die Vortragsorte, -themen u.Ä. letztendlich beim Organisationsausschuss des Linguisten-Seminars liegt.

Organisationsausschuss des 48. Linguisten-Seminars
Hiroyuki Miyashita (Leitung)
E-Mail: linguistenseminar [AT] googlegroups.com

イベント告知
【インスタライブ】ドイツ留学トーク ～大学ミニキャンパスツアー～

DAAD 東京事務所は毎月オンラインでドイツ留学説明会を開催しています。4 月は現地で学ぶ DAAD 奨学生とインスタライブ上で「ドイツ留学トーク」を行います。今回はケルン体育大学を舞台に，ミニキャンパスツアーの様な形式でトークを進めていく予定です。
ゲストの高田紘佑さんは日本で学部・修士課程修了後社会人を経験し，現在ケルン体育大学博士課程に在籍し，スポーツツーリズムを研究されています。

なお，当日は高田さんに加え，同大学スポーツパフォーマンス学部在学中の大野嵩仁さんもキャンパスツアーに参加頂き，キャンパスツアー＆質疑応答を行います。ドイツの大学に留学したい方，DAAD 奨学金への応募を考えている方，ドイツでスポーツを学びたい方など，どなたでもお気軽にご参加頂けますので，興味のありそうな学生へのご周知をお願いいたします。

【日時】2022 年 4 月 22 日（金）18:30～19:30
【配信】DAAD 東京事務所インスタグラム（@daad.japan）インスタライブ配信
【ゲスト】高田 紘佑さん（ケルン体育大学スポーツエコノミクス・スポーツマネジメント科博士課程在学中）
【登録】不要（インスタグラムのアカウントをお持ちであればどなたでもご視聴いただけます）
【質問フォーム】ゲストへの質問は事前にこちらへご投稿頂けます
【フライヤー】こちらからダウンロードいただけます
【ゲストプロフィール】高田 紘佑（たかた こうすけ）さん
大阪府出身。小学 2 年時にサッカーを始める。神戸大学発達科学部卒業後，早稲田大学スポーツ科学研究科スポーツビジネス領域の修士課程に入学。学生時には世界青年の船事業に参加。大学学部及び大学院時の恩師達が海外大学院を修了していたことから，海外で学ぶことに憧れる。だが修士課程修了後は，日本 IBM 株式会社に入社。退職後は 2020 年 1 月より，ケルン体育大学のスポーツエコノミクス・スポーツマネジメント科で博士課程に在籍。2021 年 10 月から DAAD 奨学生。インスタライブ当日は，同大学スポーツパフォーマンス学部で学ぶ大野嵩仁さん（U-13 コーチ・サッカードイツ代表分析チーム Team Köln・ブンデス 5 部プレーヤー）も参加予定。

詳細は以下ページでもご確認くださいませ。
https://www.daad.jp/ja/2022/03/23/instalive3/

Veranstaltungsankündigung

【InstaLive】 „Ryugaku Talk“: Mini-Campus-Tour

Die DAAD-Außenstelle Tokyo bietet monatlich eine virtuelle Informationsveranstaltung zum Thema „Studieren in Deutschland“ an. Im April veranstalten wir auf Instagram in unserer InstaLive-Reihe „Ryugaku Talk“ eine Mini-Campus-Tour mit einem DAAD-Stipendiaten, der an der Sporthochschule Köln promoviert.

Unser Gast, Herr Kosuke Takata, ist im Promotionsprogramm an der Sporthochschule Köln eingeschrieben und forscht zum Thema Sporttourismus. Neben Herrn Takata wird auch Herr Takahito Ohno, Bachelorstudent an der Sporthochschule Köln, an der Campusführung und der anschließenden Fragerunde teilnehmen. Alle, die sich für ein Studium im Deutschland oder die DAAD-Stipendienprogramme interessieren, sind herzlich eingeladen. Bitte informieren Sie auch Ihre Studierenden über dieses Angebot.

Datum und Uhrzeit: Freitag, 22. April 2022, 18:30–19:30 Uhr (JST)
Ort: Instagram der DAAD-Außenstelle Tokyo (@daad.japan)
Gast: Kosuke Takata, Doktorand am Institut für Sportökonomie und Sportmanagement an der Sporthochschule Köln
Anmeldung: Nicht erforderlich (jeder mit einem Instagram-Account kann ohne weitere Anmeldung teilnehmen)
Frageformular: Fragen an die Gäste können hier im Vorfeld eingereicht werden
Flyer: Kann hier heruntergeladen werden
Kurzvorstellung des Gastes:
Kosuke Takata, geboren in Osaka, begann in der zweiten Klasse der Grundschule mit dem Fußballspielen. Nach seinem Abschluss an der Faculty of Human Development der Universität Kobe begann er sein Masterstudium in Sportmanagement an der Graduate School of Sport Sciences der Waseda-Universität und arbeitete anschließend bei IBM Japan. Seit Januar 2020 promoviert er an der Sporthochschule Köln und ist seit Oktober 2021 DAAD-Stipendiat. Am Tag der InstaLive-Veranstaltung wird auch Herr Takahito Ohno (U-13-Trainer, deutsche Fußballnationalmannschaft, Team Köln, 5. Bundesliga) live dabei sein. Herr Ohno studiert an der Fakultät für Leistungssport der Universität.

Weitere Informationen finden Sie auf der folgenden Seite:
https://www.daad.jp/ja/2022/03/23/instalive3/

ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ

ゲーテ・インスティトゥート（ドイツ文化センター）は，大学・高等専門学校・高等学校のドイツ語教育担当教員を対象に，ドイツ語教員向け奨学金プログラムを実施しています。 **2023 年度募集予定の**プログラムは以下の通りです。

1. ドイツ語教員のためのランデスクンデ・教授法ゼミナール（2 週間)
2. ドイツ語学コース（2-4 週間）
   * 研修期間中の研修費用がゲーテ・インスティトゥートより支給されます。ドイツで実施の場合はそれに加えて宿泊費全額，ならびに旅費の補助金が支給されます。

< プログラム応募資格 >

大学または高等学校，高等専門学校でドイツ語を教えている，またはドイツ語教員養成に携わっている方のうち，次の条件を満たす方

- 過去数年間にドイツ政府の奨学金を受けていない
- これまでドイツ語教育とその促進に貢献しており，研修終了後少なくとも数年間，ドイツ語教育に携る予定である
- 研修で得た知識を，今後のドイツ語教育に役立つようフィードバックする意志がある
- 研修の全プログラムに参加できる
- 研修の前提となる必要なドイツ語力を備えている

詳細は，2022 年夏以降，ホームページの申込要領をご確認の上，
2022 年 10 月 10 日までにメールの添付でお送りください

問い合わせ/申込：ゲーテ・インスティトゥート東京
ドイツ語教員研修支援プログラム係
TEL:03-3584-3201 **E-Mail: stipendien-tokyo@goethe.de**

DEUTSCH LEHREN LERNEN

Als Antwort auf die veränderten Anforderungen der Lehrkräftequalifizierung hat das Goethe-Institut die Fort- und Weiterbildungsreihe DLL – Deutsch Lehren Lernen zur weltweiten Qualifizierung von Lehrkräften für Deutsch als Fremdsprache sowie Deutsch als Zweitsprache gemäß dem aktuellen fachdidaktischen Wissensstand entwickelt.

Fortbildungen mit DLL führen zu einer Aktualisierung des in der Ausbildung erworbenen Wissens, zu einer Erweiterung des fachdidaktischen Wissens und der Unterrichtskompetenz und zu einem Erwerb zusätzlicher formaler Qualifikation.

DLL richtet sich an Lehrende des Faches Deutsch als Fremdsprache im Primarbereich, in der Sekundarstufe und in der Erwachsenenbildung mit Unterrichtserfahrung. Die Teilnahme ist für DaF-Lehrende mit formaler Ausbildung oder ohne formale Ausbildung möglich. Voraussetzung für eine erfolgreiche Teilnahme sind Sprachkenntnisse auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen.

Das Goethe-Institut Tokyo bietet die DLL-Einheiten 1-6 in Form eines regionalen DLL-Zyklus regelmäßig an. Pro Jahr werden fünf Einheiten durchgeführt. Eine DLL-Einheit wird über einen Zeitraum von 9 Wochen bearbeitet und mit einem Praxiserkundungsprojekt (PEP) abgeschlossen.

Mehr Information finden Sie hier: Deutsch Lehren , Lernen - Goethe-Institut Japan
Im Jahr 2022 wird für Deutschlehrende in ganz Japan in Form eines virtuellen Camps eine intensive Fortbildung zu „Deutsch lehren lernen“ (DLL) angeboten. Inhaltlicher Schwerpunkt sind die DLL-Basis-Einheiten 1-6.
Wenn Sie sich für Teil 2 anmelden möchten, schicken Sie bitte bis Freitag, den 29**.7.2022**, eine Mail an Frau Tomoko Maruyama unter Tomoko.Maruyama@goethe.de.

2021 年度岩﨑奨学金（出版助成）について

2020 年度に岩﨑奨学金は，若手研究者のための出版助成に改定されました。2021 年度は，申請がありませんでした。

なお，岩﨑奨学金（出版助成）の概要は，下記のとおりです。

【奨学金の趣旨】

日本独文学会は，故岩﨑英二郎先生のご遺族からいただいた寄付金で「日本独文学会岩﨑奨学金」を創設し，若手研究者の育成のために国際学会の発表に対しての奨学金を支給してきましたが，必要とされている援助を行うという観点から，この度より若手研究者の研究成果公開のための奨学金制度へと改定することになりました。

【奨学金の概要】

1. 博士論文の出版に際して，テニュア職を持たない会員に対して，30 万円を上限に出版費用の助成を行う。
2. 奨学金の支給は年度総額の上限を設定する（2020 年度については 60 万円）。また，同一会員への支給は 1 回のみとする。
3. 募集は年度毎に行い，日本独文学会ホームページその他の手段で会員に広く公示する。
4. 奨学金は 2020 年 4 月より募集を開始する。
5. 奨学金の返済の義務はない。ただし，支給後に，申請対象の研究書の出版を中止した場合，受け取った奨学金を返還するものとする。
6. 他の出版助成を受けることは可能であるが，本奨学金と合わせて出版費用を超えないこと。
7. 奨学金を受けようとする者は，決められた書式の申請書類を日本独文学会事務局に提出する。
8. 審査は日本独文学会常任理事会内に設けた審査委員会が行う。審査委員会は，外部の専門家に審査を依頼することができる。審査の結果適当と認めた場合，奨学金を支給する。
9. 奨学金の原資を使い切った時点でこの事業を終了する。また，事情により，予告なしにこの事業を終了することもある。

【募集人数】
各年度 2 件〜3 件程度。

【応募資格】　以下の条件をすべて満たす者。
1. 日本独文学会員。
2. テニュア職を持たない者。

【応募方法】
1. 下記の必要書類を日本独文学会事務局へ郵送する。a）と b）に関しては同時にファイルを電子メールで hojo@jgg.jp 宛に送付する。
2. 応募締め切り：毎年 6 月 30 日
   a) 奨学金申請書（3 種類），書式（3）
   b) 原稿
   c) 誓約書
   d) 博士論文の審査に合格したことを証明する文書

【選考方法】
1. 提出された申請書を日本独文学会常任理事会で審査する。
2. 必要に応じて，審査委員会外の専門家に審査を依頼することがある。
3. 申請から 3 ヶ月程度で申請者に採否を通知する。

第 19 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果

2022 年 4 月 1 日現在，審査中。結果は，7 月ごろ日本独文学会ウェブサイトにて公表する予定。表彰式は秋季研究発表会（オンライン開催）にて行う。

日本独文学会 2021 年度秋季研究発表会報告

2021 年秋季研究発表会は 10 月 2 日（土）および 3 日（日）に東北大学川内キャンパスにて実施される予定であったが, 新型コロナウイルス感染症拡大をうけ, 同日程で Zoom によるオンライン方式で開催された。

これまでの対面で行われた秋季研究発表会と同様，1 日目は 13：00〜17：45, 2 日目は 10：00〜13：00 に開催され，研究発表会の内訳はシンポジウム 2 本，口頭発表 9 本，ポスター発表 2 本，ブース発表 2 本で，活発な発表と討議・意見交換がされた。口頭発表・シンポジウムと並行して，朝日出版社・郁文堂・三修社・第三書房・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるオンラインブースが設けられた。1 日目の 18：00〜20：00 に新たなオンラインツール oVice を用いてオンライン懇親会が開催され，多くの方々にご参加いただくことができた。

オンラインでの開催に際し，東北大学，東北支部の皆様，関係各位に多大なるご協力をいただいた。ここに改めて感謝申し上げる。

企画担当（荒又雄介・生駒美喜）

語学ゼミナール・オンライン 2021 報告

2021 年の語学ゼミナールは，当初，京都で開催する予定であったが，会場として予定していたホテルの廃業や長引く緊急事態宣言などコロナ禍の影響を受け，今回も「語学ゼミナール・オンライン 2021」として遠隔会議方式での開催を余儀なくされた。しかし幸いにも，招待講師のコンスタンツ大学 Josef Bayer 教授が，本来予定していた 3 講演を 1 回に凝縮した基調講演を行ってくださった結果，2021 年 8 月 31 日（火）～ 9 月 3 日（金）の 4 日間にわたったオンライン代替企画は，本来企画と内容的に遜色のない催しとなった。

以下にゼミナールの参加者および最終的なプログラムを掲げる。

招待講師：　Prof. Dr. Josef Bayer (Universität Konstanz)

一般参加者（姓のアルファベット順）：
アーント沙羅（Universität Heidelberg・院生），坂東諒太（関西学院大学・院生），Shoou-Huey Chang（Wenzao Ursuline University of Languages, Taiwan），*大喜祐太（近畿大学），段上佳代（関西学院大学），藤井俊吾（東京大学・院生），**藤縄康弘（東京外国語大学），井口真一（関西学院大学），池田裕行（東京外国語大学・院生），生駒美喜（早稲田大学），*稲葉治朗（東京大学），井坂ゆかり（東京外国語大学），*板倉歌（日本大学），伊藤克将（上智大学），Jiseon Jeon（Korea University），覚知頌春（北海道大学・院生），小池駿（中央大学・院生），河野巧一（長崎大学・学部生），松本蒼来（慶應義塾大学・院生），*宮下博幸（関西学院大学），森芳樹（東京大学），室井禎之（早稲田大学），成田節（東京外国語大学），仁科陽江（広島大学），*信國萌（大阪市立大学），沼畑向穂（東京外国語大学・院生），*小川敦（大阪大学），岡部亜美（Leiden University・院生），佐分利啓和（関西学院大学・院生），*Manuela Sato-Prinz（DAAD Tokyo），Maria Gabriela Schmidt（日本大学），***嶋崎啓（東北大学），Sungyup Shin（Yonsei University, Korea），末松淑美（国立音楽大学），高橋眞樹（慶應義塾大学・学部生），高橋亮介（上智大学），高畑明里（東京大学・院生），武和磨（日本大学・院生），田中一嘉（群馬大学），田中愼（慶應義塾大学），*時田伊津子（日本大学），筒井友弥（京都外国語大学），牛山さおり（東京藝術大学），渡辺学（明治大学），山崎祐人（東京大学・院生），横田詩織（慶應義塾大学・院生），吉田光演（広島大学）

***担当理事，**実行委員長，*実行委員

プログラム：

8 月 31 日	16:00-18:00	開会，Bayer 教授基調講演
9 月 1 日	16:00-18:00	一般研究発表 I
9 月 2 日	16:00-18:00	一般研究発表 II
9 月 3 日	16:00-17:30	一般研究発表 III

参加者 47 名中，14 名が大学院生，2 名が学部生であった。また，台湾と韓国からの一般参加も 3 名を数えた。ゼミナール開催にあたっては DAAD に多大なご支援を賜った。ここに記して謝意を表す。

Bayer 教授による基調講演は „Deutsche Partikeln als funktionale Köpfe“（機能的主要部としてのドイツ語小辞）という題で初日に行われた。小辞は副詞同様，屈折しない語であり，副詞の一種と見なされることも珍しくない。それだけに，Bayer 教授は講演の前半において小辞 — とりわけ心態詞（Modalpartikel）— がいかに副詞と異なる統語範疇であるかを記述論的に解説した。それによると，副詞と異なり心態詞をはじめとする小辞は，閉じたクラスをなしており，語彙的ではなく文法的な意味（否定，法，焦点など）に寄与する。確かに，小辞は言語史的には副詞から派生し，いまでもなお元来の副詞と併存していることが珍しくないが，文法化を経て音声的に縮約された分，統語的な振舞いに制約がある。心態詞の場合，単独で前域や後域に現れることができないし，中域に複数の心態詞が現れる場合も可能な順序が限られる。例えば ja < doch，ja < wohl，doch < wohl であり，逆の順序は許されない：

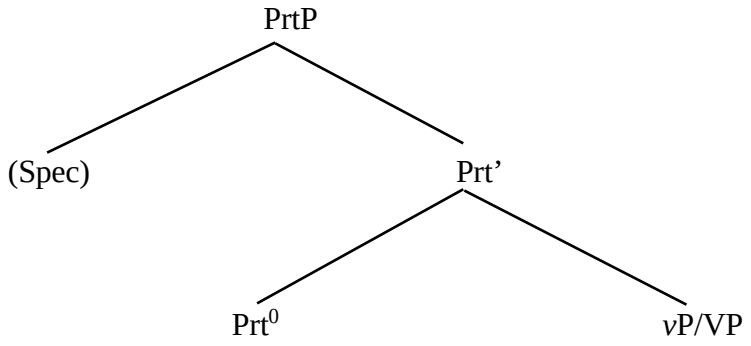
（1） Das ist **ja doch wohl** die Höhe!

小辞の中でも，話し手と聞き手が共有する背景知（Common Ground）の質を示す心態詞は，その生起が文のムード（Satzmodus）に条件づけられている。例えば，denn は疑問のムードを求め，陳述ないし要求のムードと相容れないが，doch は反対にこれらのムードを必要とする。この場合，心態詞自身はムードの識別に決定的な役割を果たす前域を占め得ないにもかかわらず，どうしてムードを選択し得るのかという疑問が湧く。

そこで，講演の後半は，心態詞の順序やムードとの関係にまつわるこうした疑問を理論的にいかに矛盾なく解決し得るかに焦点が当てられた。Bayer 教授が採用する枠組みは，精細な句構造の積み上げを特徴とする「カートグラフィー（Kartographie）」と呼ばれる生成文法の理論である。この理論的枠組みによれば，心態詞や焦点化詞などの小辞は，機能的主要部と分析するのがもっとも首尾一貫するという。小辞はその作用域にあたる *v*P/VP を補部とする次のような構造をな

す：

（2）



ポイントは，この PrtP（= Particle Phrase）という中域の構造を基盤にして作用域を定める小辞は，その位置が Prt^0 に固定される（「凍結 (Einfrierung; freezing)」）ということである。（3）のように，一見，中域において自由であるかのような小辞の配置は，それ自体の移動ではなく，（4）のように，*v*P/VP の項や付加語にあたる文肢が *v*P/VP 内に自らのコピーを残して移動した結果なのである：

（3） Wann könnte (**denn**) Otto (**denn**) den Brief (**denn**) gestern (**denn**) ins Büro (**denn**) mitgenommen haben?

（4） a. Wann könnte [**denn** [Otto den Brief gestern ins Büro mitgenommen haben]]?

b. Wann könnte Otto [**denn** [~~Otto~~ den Brief gestern ins Büro mitgenommen haben]]?

c. Wann könnte Otto den Brief [**denn** [~~Otto~~ ~~den Brief~~ gestern ins Büro mitgenommen haben]]?

d. Wann könnte Otto den Brief gestern [**denn** [~~Otto~~ ~~den Brief~~ ~~gestern~~ ins Büro mitgenommen haben]]?

e. Wann könnte Otto den Brief gestern ins Büro [**denn** [~~Otto~~ ~~den Brief~~ ~~gestern~~ ~~ins Büro~~ mitgenommen haben]]?

ムードとの関係についても，PrtP 主要部を埋める個別の小辞にムードと相関する特定の素性（例えば *u*Q）を想定し，これが前域での解釈を要する素性（*i*Q）と一致するものとして説明される。既存の理論的枠組みに恣意的な修正を加える必要がないという点で，極めて自然な説明と言える：

（4） $[_{ForceP}\ wh_{iQ}\ V_{fin}\ [TP \ldots [_{PrtP}\ Prt_{uQ}\ [_{vP} \ldots \cancel{wh} \ldots]]]]$

一致

ただし，（5b）のような事例がこうした説明に反するように思われる：

（5）a. An wen könnte er sich **denn** gewandt haben?

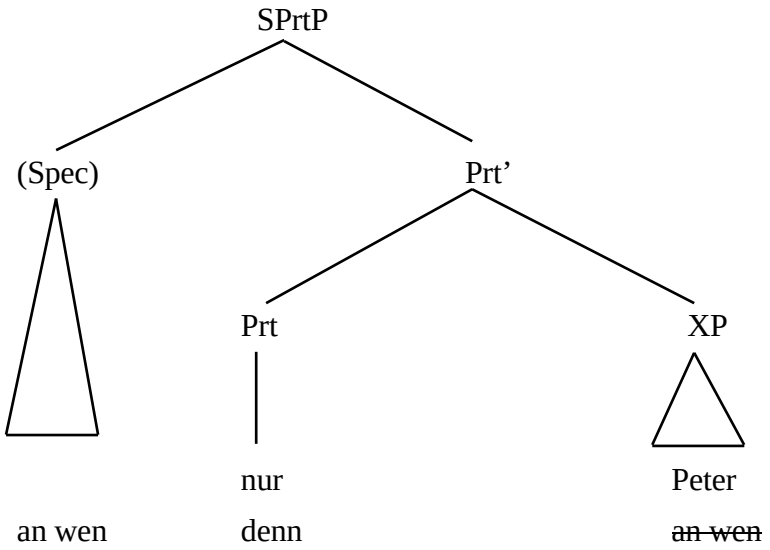
b. An wen **denn** könnte er sich gewandt haben?

（5b）では，前域の an wen と定動詞 könnte のあいだに小辞 denn が割って入り，「定動詞第 3 位」が実現したかのようである。しかし，ここでの denn も，Bayer 教授によれば，（5a）の位置（PrtP 主要部）から移動したのではない。というのも小辞は ― 特に焦点化詞で顕著なように ― 自身が PrtP の主要部になる以外に，任意の文肢とともに構成素をなして（2）の基盤構造に関わることもある：

（6） John loves [**only** Mary].

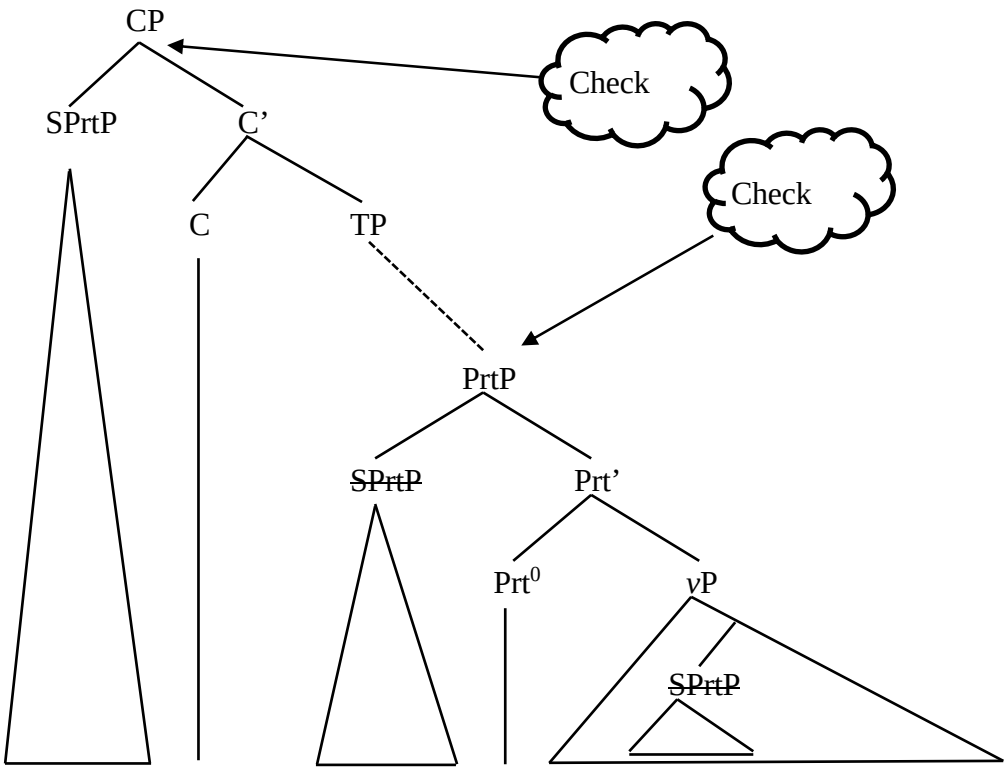
VO 語順の英語において動詞と目的語は隣接しなければならないが，(6) では only のような焦点化詞が，見かけ上，両者のあいだに割って入っている。この場合の only は Mary とともに構成素をなして loves の目的語になっていると考えざるを得ない。こうした，小辞を含み文肢として機能する構成素を SPrtP（= Small Particle Phrase）とすると，SPrtP の内部構造は，X バーの図式に従って（7）ようであると考えられる：

（7）



*v*P/VP 内に基底生成された SPrtP は，PrtP の指定部に繰り上げられ，この位置で主要部 Prt^0 と一致することを通じて，PrtP 補部にある *v*P/VP を作用域として確定する（(8) の Check Prt! 参照）：

（8）



An wen denn könnte er sich ~~an wenn denn~~ (**denn**) ~~er~~ ~~sich~~ ~~an wen denn~~ gewandt haben ~~könnte~~

この場合，Prt^0 は，標準ドイツ語では音声的に実現されることはないが，この不可視の (**denn**) が機能的主要部であるため，Prt^0 の位置は不変である。他方，SPrtP のほうは，補部 XP に由来する素性（例えば（5b）では *+wh*）に応じて，さらに文の前域に移動する（(8) の Check *wh*! 参照）。（5b）における小辞の配置はこのように相互に独立して動機づけられる過程が複合した産物なのであって，小辞自体が中域の Prt^0 から前域に移動した結果ではない。

それが証拠に，複数の小辞が同時に用いられる場合，SPrtP の主要部として前域に現れる小辞と中域に残る小辞との順序は，（9）に示すとおり中域で可能な順序と正反対にさえなり得るが，これは (9’) のように，指定部に繰り上げられた SPrtP である an wen schon と一致する中域の Prt^0，つまり不可視の (schon) が *v*P/VP に直に隣接している場合に自ずと予見される帰結である：

（9）a. An wen wird er sich **denn** damals **schon** gewandt haben?
b. *An wen wird er sich **schon** damals **denn** gewandt haben?
c. An wen **schon** wird er sich damals **denn** gewandt haben?

（9’） [$_{\text{SPrtP}}$ An wen **schon**] wird er sich damals [$_{\text{dennP}}$ **denn** [$_{\text{schonP}}$ ~~[an wen schon]~~ (schon) [$_{v\text{P}}$ ~~er~~ ~~sich~~ ~~[an wen schon]~~ gewandt haben]]]?

もし，Prt^0 自体が中域から他の文肢ともども前域に移動するのだとしたら，「定動

詞第 3 位」という例外を認めることになり，新たな課題を背負い込むことになってしまうだろう。総合的に見て SPrtP 分析の理論的優位は明白である。Prt^0 自体の位置は一定であるとの見解が納得の行くかたちで示されたと言える。

このように，Bayer 教授の基調講演は，小辞，とりわけ心態詞に関する基本的事実の（再）確認から最先端の統語理論までをカバーした，極めて内容の濃い講演であった。この充実ぶりを物語るかのように，講演後の質疑応答も，予定時刻をすでにかなり超過していたにもかかわらず，たいへん活発であった。

ゼミナール 2〜4 日目には，一般参加者による計 8 本の発表が行われた。ここでも，聴衆から積極的に質問や意見が出されただけでなく，Bayer 教授からも有益なコメントやアドバイスが発表者，特に若手発表者に対してなされ，非常に有意義な学術的協働の場となった。また，最終日にはオンラインでの懇親会も催され，年齢や性別，所属，国籍等を越えた交流が実現した。

以上のように，語学ゼミナール・オンライン 2021 は今年も遠隔会議方式であったが，トラブルらしいトラブルに見舞われることなく，成功裡に終了することができた。招待講師の Bayer 教授をはじめ，DAAD，参加者各位，実行委員各位，担当理事，さらには日頃より語学ゼミナールの活動を支援してくださっているすべての学会員の皆様に，この場を借りて改めて御礼申し上げるとともに，来年こそは現地での対面方式による開催が可能となることを心から祈念したい。

（文責：藤縄康弘）

日本独文学会研究叢書既刊一覧

Nr. 144　ベンヤミンの経験への問い──1930 年代を焦点に──
[Die Frage nach der Erfahrung bei Walter Benjamin—Ausgehend von seinem Denken in den dreißiger Jahren—]
編集者：柿木伸之，田邉恵子
執筆者：柿木伸之，茅野大樹，田邉恵子，影浦亮平，竹峰義和
発行日：2021. 10. 2

Nr. 145　言語を逍遥する詩人－多和田葉子の文学をめぐって－
[Zur Literatur der Sprach-Wandlerin Yoko Tawada]
編集者：土屋勝彦
執筆者：土屋勝彦，齋藤由美子，谷本知沙，越川瑛理，谷口幸代, 松永美穂
発行日：2021. 10. 2

Nr. 146　「詩人たちの時代」の終わり？－ヘルダーリン，ツェラン，そしてバディウ－
[Ende der „Epoche der Dichter“? – Hölderlin, Celan und Badiou –]
編集者：益敏郎
執筆者：益敏郎，林英哉，小野寺賢一，太田浩司，林志津江
発行日：2021. 10. 2

Nr. 147　「オリジナル」とはどういうことか—近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏—
[Was ist ein Original?　Problematiken der Reproduktion]
編集者：由比俊行
執筆者：由比俊行，藤原美沙，熊谷哲哉，宇和川雄，福岡麻子
発行日：2021. 10. 2

Nr. 148　生誕 100 年　世界文学の中のパウル・ツェラン－その翻訳と受容の多様性－
[100 Jahre Paul Celan－Zur Vielfalt von Übersetzung und Rezeption im Rahmen der Weltliteratur－]
編集者：関口裕昭
執筆者：細見和之，斎藤毅，福間具子，関口裕昭，齋藤由美子
発行日：2021. 10. 2

2021 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告

1. 本講座の運営について

ドイツ語教育部会，東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は，2021 年 10 月から Zoom による全面オンライン開催に移行し，全国からの参加が可能となっている。受講者は，ワークショップへの参加に加え，各モジュールのテーマについてレポートを作成し提出することが求められる。また，専用のプラットフォームである Moodle 上では，受講者同士，また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され，受講者・講師双方にとって，ドイツ語教育について再考する刺激的な議論の場となっている。

2. 実行委員の着任および退任

2021 年 4 月 1 日に新規実行委員として坂本真一氏が着任した。2021-2023 年期講座より，境一三氏に代わり太田達也氏が実行委員長に着任した。

3. 2021 年秋開講のコースについて

2021 年秋開講のコースは，時流に合わせて講座目的の見直しを行い，それに合わせて講座内容も充実させている。前期が 2021 年 10 月から 2022 年 7 月までの 8 回のワークショップで 7 モジュール，後期が 2022 年 10 月から 2023 年 9 月までの 8 回のワークショップで 4 モジュールならびに *Deutsch Lehren Lernen 4* （以下 DLL）の課題，計 11 のモジュールからなる。前期コースには 22 名の受講者が参加し，2022 年 3 月の時点で第 4 回ワークショップまで終了した。

前期コースのワークショップ開催日，モジュールのテーマ並びに講師は以下のとおりである。

前期コース（2021 年 10 月—2022 年 9 月）

ワークショップ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ	
		前半	後半
1	10 月 16 日	導入：コースへの期待； 自身の体験の振り返り 太田達也，草本晶	**M1**: 教授法の変遷；教材分析，教材作成 境一三，草本晶
2	11 月 6 日	M1 のレポートの評価と討論	**M2:** 授業計画，授業目標，シラバス 太田達也，野村幸宏
3	12 月 18 日	M2 のレポートの評価と討論	**M3**: 受容的能力（聴く・読む） 植栗裕子，太田達也
4	1 月 29 日	M3 のレポートの評価と討論	**M4**: 産出的能力（話す・書く）とフィードバック 坂本真一，Marco Raindl
5	4 月 23 日	M4 のレポートの評価と討論	**M5**: 教師に求められる能力：科学知と実践知；CEFR にみる教育理念 境一三，太田達也
6	5 月 21 日	M5 のレポートの評価と討論	**M6**: Lernerzentrierung（学習者中心） Goethe-Institut
7	6 月 11 日	M6 のレポートの評価と討論	**M7**: ドイツ語授業の参観 森田昌美，野村幸宏
8	7 月 23 日	M7 のレポートの評価と討論	講座の総括 太田達也

2021 年度ドイツ語論文執筆ワークショップ開催報告

第 6 回ドイツ語論文執筆ワークショップを, 2021 年 11 月 6 日（土）と 7 日（日）の 2 日間の日程で開催した。今回のワークショップは，オンラインで開催したため，当初予定されていた DAAD からの資金援助は受けなかった。また，オンラインによるワークショップという形式上，例年行われていた懇親会の開催は見送った。講師は，井出万秀氏（立教大学），マヌエル・クラウス氏（早稲田大学），宮崎麻子氏（大阪大学）が，実行委員は，池中愛海氏（慶應義塾大学），若山真理子氏（東京大学），馬場大介氏（立教大学）が務めた。今年度のワークショップには，大学院生, 若手・中堅の研究者を中心に, 両日合わせて 11 名（独文学会会員 8 名，非会員 3 名）が参加した。ワークショップは，適宜小休憩を挟みながら，以下のスケジュールで行った（敬称略）。

11 月 6 日（土）

13:30-13:40	開会の挨拶（井出）
13:40-14:30	論文執筆の概論（井出）
14:30-15:00	質疑応答
15:00-16:30	ドイツ語レジュメ・アブストラクトへのコメント（クラウス）
16:30-17:00	質疑応答
17:00-18:00	アカデミック・ライティング講習（クラウス）

11 月 7 日（日）

10:00-11:00	講演（宮崎）
11:00-12:00	質疑応答・相談
12:00-13:00	昼食休憩
13:00-15:00	アカデミック・ライティング講習（井出，クラウス）
15:00-15:30	質疑応答，総論
15:30-16:00	閉会の挨拶（井出），感想（全員）

6 日は，まず井出氏が，ドイツ語論文を執筆する上で踏まえるべき事項を，修辞学的観点から概説した。その際に井出氏は，文章を書くジャンルや目的によって論理展開のパターンが異なる点，またその論理展開を意識して言語表現を選択する必要がある点を強調した。次にクラウス氏が，参加者が事前に提出した校正済みのレジュメ・アブストラクトを点検しながら，その注意点を解説した。その後もクラウス氏が，アカデミック・ライティングの講習を担当した。講習では，クラウス氏がその場で課題を出した上で，参加者の反応を見て，解答の解説を行った。

7 日は，宮崎氏の講演「ベルリンで博論（2007-2013）：研究対象の言語で研究活

動をするという冒険」で始まった。宮崎氏は，博士論文を執筆した当時の状況・経過を振り返り，多くの人から助力を得たことを踏まえて,「長い道はひとりぼっちでは歩めない」という言葉で講演を締め括った。午後の講習では，クラウス氏が, Kahoot!などのスマートフォンのアプリケーションを使用して, アカデミック・ライティングに必須の語彙をクイズ形式で出題し，これを気軽に行うことができる学習方法として紹介した。ワークショップを終了するにあたり，実行委員と参加者が，自己紹介も兼ねて挨拶の言葉と感想を述べた。

総じて，ドイツ語論文執筆ワークショップは，今回で大きくリニューアルされたという印象を受ける。前回までのワークショップでは，講師が参加者に向けて行う「講義」のスタイルが主流であった。これに対して今回は，講師と参加者が双方向に見解を述べ合う「ゼミナール」に近い形式が成り立っていた。実際に，今年度は参加者の人数が例年に比べて少なかったにもかかわらず，意見・質疑は長時間活発に交わされた。さらに，オンラインによる開催が，遠方からの参加も容易にする一方で，直接的なコミュニケーションを困難にしたことは，今後の開催方法をめぐって検討の可能性を広げたと言える。

以上のように，ワークショップを成功理に終了した。このことに対して，実行委員会を代表して謝辞を述べたい。井出万秀氏は，今回もワークショップの計画を立案・組織し，適宜実行委員会に指示をくださった。マヌエル・クラウス氏は，豊富なドイツ語の教授経験に基づき，論文執筆をまだ経験していない参加者にも明快な指南をくださった。宮崎麻子氏は，ドイツ語の博士論文の執筆という貴重な経験から，その難しさと同時に魅力も具体的に示してくださった。以上の講師の先生方，積極的に参加してくださった皆様，そして今回も実行委員を務めることを快諾し，ワークショップ当日は司会も担当してくださった池中愛海氏と若山真理子氏に，厚くお礼を申し上げる。

（文責：馬場大介）

支部報告

北海道支部

2021 年 12 月 11 日に対面により総会が行われ，以下の事項が承認された。

１．　会員数が減少しているため，今まで夏期と冬期に年２回開催されていた研究発表会を，年１回に削減すること。

２．　今まで紙媒体で提供していた研究発表要旨を，以降は電子媒体に切り替えること。

３．　今まで北大文学部助教が担当していた事務局業務を，助教の退任により以降は各幹事が分担して担当すること。

また，以下の事項が報告された

１．　北海道支部が担当する 2022 年度日本独文学会秋季研究発表会については，オンライン開催とすること。

続いて，第 89 回研究発表会が開催され，以下の 2 つの発表が行われた。

江口　豊（北海道大学）:「新聞の成立の意義と同時代の反響」

西川　智之（名古屋大学）:「世紀転換期のディレッタンティズム：トーマス・マンとアルフレート・リヒトヴァルクの比較」（西川発表は, zoom 配信）

出席者 22 名

支部学会員数：61 名（2021 年 12 月 11 日現在）

東北支部

〇東北ドイツ文学会会員の協力のもと担当支部として，日本独文学会 2021 年秋季研究発表会が 2021 年 10 月 2 日（土）, 3 日（日）にオンラインにて開催された。

〇2021 年度開催予定の東北ドイツ文学会第 64 回研究発表会は，日本独文学会秋季研究発表会開催に伴って 2022 年度開催に延期された。

〇会員数は 86 名（2022 年 4 月 1 日現在）

北陸支部

〇2021 年度研究発表会が以下のとおり実施された。

日時：2022 年 2 月 19 日（土） 午後 1 時 30 分〜午後 5 時 50 分

会場：金沢大学サテライト・プラザ 2 階 講義室

研究発表：

1. 文の作成過程における前域文成分の選択傾向について
   磯部美穂・円谷友英
2. Wikipedia 閲覧統計の波形データを利用したドイツ語圏の文学文化の調査
   名執基樹
3. ヘルマン・ブロッホ『魅了』（Die Verzauberung, 1935）における代理業者像について
   早川文人
4. Der Einfluss von Attack on Titan auf japanische Deutschlernende und Medientourist:innen
   Timo Thelen
5. 視点概念と言語表現 ―ドイツ語と日本語の対照に向けて
   成田節
6. 柏原兵三の『ベルリン漂泊』について
   宮内伸子

関東支部

〇2021 年 12 月 12 日（日）に第 12 回関東支部研究発表会を Zoom によるリアルタイム配信の形で開催した。4 件の研究発表がなされ, 活発な議論が交わされた。発表者と表題は次の通り。

伊藤港：Absentiv（不在構文）の用法について

森下勇矢：道化服と悪魔 ―『阿呆物語』にみる愚者から悪漢への変貌

相馬尚之：心身一元論から「原-自我」へ ―1920 年代におけるデーブリーンの自然哲学

前田佳一：インゲボルク・バッハマンの短編集『三十歳』における固有名の機能

東海支部

○支部会員数　108 名　（2022 年 2 月 4 日現在）

○機関誌

2021 年 10 月,『ドイツ文学研究』第 53 号が刊行された。

論文

1．大塚　直：劇作家ホルヴァートと『ウィーンの森の物語』―ヴァイマル共和政時代における女性の自己実現と社会的転落をめぐって―

2．Conrad, Marcus：Geschäfte mit Büchern im 18. Jahrhundert.―Das Verlagsarchiv Gebauer-Schwetschke in Halle―

3．坂本真一：試験会話における試験官の「質問」の発話デザインと行為の構成

研究エッセイ

1．鈴木康志：親称の duzen と敬称の ihrzen, siezen の使い分けと訳し分け―命令文の場合を中心に―

2．大喜祐太：『ハイジの修行・遍歴時代』のスイス的要素に関する覚書―豊潤ドイツ語版テクストとの比較を通して―

ドイツ語教育の現場から

1．太田達也：市民性形成を視野に入れたドイツ語教育

活動報告

1．細井直子：ソーシャル・トランスレーティング・プロジェクトに参加して

書評

1．樋口恵著『エリアス・カネッティ『群衆と権力』の軌跡－群衆論の系譜と戯曲集を手がかりに』（越智　和弘）

2．越智和弘著『女性を消去する資本の世界：西欧男性原理によるグローバル化のヴェールを剥ぐ』（長澤　崇雄）

3．ユーディット・シャランスキー著　細井直子訳『失われたいくつかの物の目録』（土屋　勝彦）

4．テレツィア・モーラ著　鈴木仁子訳『よそ者たちの愛』（神谷　裕子）

○合評会

2021 年 12 月 11 日（土），10 時より東海支部機関誌に掲載された論文の合評会が Zoom によるオンラインでおこなわれた。

○2021 年度総会

1）理事報告，庶務報告，編集委員報告，会計報告，及び予算案の報告と承認

2）辞退権に期限を設ける提案について（継続）

3) 規約の改正：会費の複数年（4 年）滞納者に関して，強制退会にする旨を規約第 6 条第 2 項に追加する提案は，賛成多数で承認される。

4) 東海支部の紹介文（日本語とドイツ語）をあらたに作成し，入会を検討する人に配布する提案は，賛成多数で承認される。

5）役員選挙の結果，支部幹事の半数が改選された。

新幹事（二年任期）：稲葉瑛志，中野英莉子，北村陽子

2022 年度新幹事会の役割分担は以下の通り（下線付きは今回選出, 下線無しは留任）

支部長：長澤崇雄

支部選出理事：島田了

庶務：北村陽子，稲葉瑛志

会計：樋口恵，中川拓哉

編集：Oliver Mayer，中野英莉子

〇2021 年度日本独文学会東海支部冬季研究発表会

日時：12 月 11 日(土曜日)　14 時 00 分より

場所：ビデオ会議 zoom を用いたオンライン会議

研究発表

1) 鈴木友美加：ドイツ語授業における学習者の自発的発言，及び言語選択に影響を及ぼす心理的要因―日本の大学生を対象としたアンケート調査より―

2) Jan Gerrit Strala：Europa und seine Nationen - Alternative Konzepte zur Bedeutung und Gestalt Europas

3) Oliver Mayer: Deutschunterricht an der Oberschule. Ein Bericht zum Fremdsprachenunterricht an zwei Oberschulen in Aichi

〇懇親会

研究発表会終了後，Zoom のブレイクアウトルームを用いて開催

〇2022 年度夏季研究発表会の開催について

7 月 9 日(土曜日)を予定，オンラインを前提とするが，対面・ハイブリッドも検討する。

京都支部

〇2021 年度秋季研究発表会・総会（リモート開催）

開催日時：2021 年 11 月 20 日（土）13：30〜18：00

参加者数：41 名

研究発表：

１．旅路としてのモラトリアム
　　― シュティフターの『老独身者』について
　　杉山東洋（京都大学大学院生）

２．18 世紀のフォールスメモリーシンドローム
　　―ヴィーラントの「ボニファーツ・シュライヒャー」序章を
　　手がかりに
　　松波烈（京都大学非常勤）

３．悲劇としての妊娠
　　―レンツとゲーテにおける「子殺し女」のモチーフ
　　菅利恵（京都大学）

総会：2020 年度決算報告と 2021 年度予算案，各種委員報告

支部役員選挙：7 名の新委員が選出された。

〇2022 年度春季研究発表会は 7 月 2 日（土）に開催予定。

〇学会誌『Germanistik Kyoto』について

2000 年より年 1 回刊行。2021 年発行の第 22 号掲載論文は以下の通り。

■ヴァイニンガーとプラトン的な愛 ―『性と性格』を中心に
　白坂彩乃

■ドミトリー・メレシコフスキーを読むトーマス・マン
　―「第三の国」における「エロス的禁欲」の位相をめぐって
　鈴木啓峻

■沈黙するメデイア―クリスタ・ヴォルフ『メデイア　さまざまな声』における
　語りと沈黙
　牧野広樹

■姿勢動詞 stehen と liegen で建物の所在を表す用法に関するコーパス調査
　岡部亜美

○「読み切りブックレット・ドイツの文化」について
2016 年より出版助成を開始。2022 年 5 月に第 3 巻を刊行予定。

○2022 年度支部役員
支部長：今井敦（龍谷大学）
支部選出理事：吉村淳一（滋賀県立大学）
編集委員：金子哲太（京都外国語大学），小林哲也（京都大学）
渉外・広報委員：菅利恵（京都大学），大喜祐太（近畿大学）
会計委員：麻生陽子（南山大学）
庶務委員：谷口栄一（大阪公立大学），筒井友弥（京都外国語大学）

○会員数：140 名（2022 年 4 月 1 日現在）

阪神支部
○第 236 回研究発表会
日時： 2021 年 12 月 12 日（日）13:30～（オンライン開催）
参加者： 約 50 名
シンポジウム
プネウマ／スピリトゥス／ガイスト ── 概念史点描の試み
導入・司会：久山雄甫（神戸大学）
1. 茶谷直人（神戸大学）:「プシュケー」と「プネウマ」──アリストテレスを中心として
2. 河合成雄（神戸大学）：フィチーノにおけるスピリトゥス概念
3. 久山雄甫（神戸大学）：ゲーテとガイスト概念──生命，時間，余白
4. 蘆田祐子（神戸大学大学院博士後期課程）：シュティフターにおける「ガイスト的な眼」

○2022 年 2 月 23 日現在の会員数は 222 名

中国四国支部

〇2021 年 10 月 25 日　機関誌『ドイツ文学論集』54 を発行した。

・論文

1. Sari NOMA
   Bildungsmöglichkeiten des Zustandspassivs bei Aktivitäts- und Errungenschaftsverben
2. 小林　英起子
   啓蒙喜劇の作劇法をめぐる比較考察―J. E. シュレーゲルの『忙しい怠け者』と C. E. ヴァイセの『アマーリア』を例に

・研究ノート

1. 高木　文夫
   ヴェールト「皇帝カール」考
2. Hiroshi MATSUO
   Stefan George: “Wenn um der zinnen kupferglühe hauben“
   – Ein Versuch der Diskursanalyse –

〇2020 年 10 月 30 日　愛媛大学において Zoom によるオンライン形式で中国四国支部第 70 回総会ならびに研究発表会を開催した。参加者 40 名（途中の出入りが正確にわからないため概数）。

幹事会（11:00～12:00）

総　会（13:00～13:30）

1. 支部幹事・役員交替について原案のとおり承認した。

役員・幹事（2020 年 11 月より）

支部長	最上 英明（香川大学）
支部選出理事	井戸 慶治（徳島大学）
地区幹事	【四国】松尾 博史（松山大学）
	【岡山・鳥取】由比 俊行（岡山大学）
	【広島・島根】今道 晴彦（広島大学）
庶務	斎藤 昌人（高知大学）
編集委員会	［委員長］松尾 博史（松山大学）
	［副委員長］黒田 晴之（松山大学）
会計	伊藤 亮平（松山大学）

2. 決算および予算について原案のとおり承認した。
3. 2022 年，2023 年および 2024 年の支部幹事会・総会・研究発表会は，それぞれ岡山地区，徳島地区，広島・島根地区で開催されることが承認された。なお，

2023 年度の徳島開催については，必要なら四国地区がバックアップすることが確認された。

4. 個人情報保護の観点から，会員全員に配布する名簿に関して，メールアドレス，住所ならびに電話番号の記載について，個々の会員の了解を得ることが確認された。
5. 会計年度のあり方について意見聴取をおこなうこととなった。

研究発表会（13:40～16:10）

（司会：小林 英起子／古川 昌文）

1. 今道　晴彦　文の長さと文構造の関係を巡って：コーパスに基づく計量的概　観
2. 伊藤亮平　ミンネゼンガーにおける「宮廷」概念について
3. 田口武史　〈青少年〉のための体育から〈祖国〉のための体育へ
   —J. Ch. F. グーツムーツの„Gymnastik“におけるナショナリズム—
4. 大杉洋　ゲーテにおける Grenze について

○2021 年 10 月 30 日現在の会員数は 80 名＋賛助会員 5 社。

西日本支部

○2021 年 10 月「九州ドイツ語暗唱コンテスト 2021」（福岡大学）後援

○2021 年 11 月 27 日　支部学会誌『西日本ドイツ文学』第 33 号発行。掲載論文・書評等は以下のとおり。

論文

須藤　秀平：公共圏の再構成—ゲレス『赤新聞』(1798)における「公開性」概念の歴史的文脈

大澤　遼可：ノヴァーリスにおける統合的感官としての「眼」

保坂　直之：ベルリンとゲオルク・ハイムの生きた死者の幻視

Masaru NAGAMITSU: Das Motiv des Schauspielers und das Selbstbewusst-sein in Heinrich Manns Roman *Der Untertan*

書評

福元圭太　著：『賦霊の自然哲学—フェヒナー，ヘッケル，ドリーシュ』武田利勝

葉柳和則　編：『ナチスと闘った劇場—精神的国土防衛とチューリヒ劇場の「伝説」』福元　圭太

報告

日本独文学会西日本支部　2020 年度活動報告　　荻野蔵平

〇2021 年 11 月 27 日　沖縄地区主催，オンラインにて日本独文学会西日本支部第 73 回総会・研究発表会を開催。参加者 45 名。
研究発表タイトルと発表者は以下のとおり。

1. トーマス・マン作品における「ざわめき」の意味論　　坂本彩希絵
2. 労働力を呼びよせたのに，やってくるのは人間だ―マックス・フリッシュにおける「異他的なもの」の排除―　　葉柳和則
3. 「道」の変貌―ヴェンダースの「空」　　冨重純子
4. 思考線の詩学―二重の検閲によるウィーン世紀末文学の一断面―　　堺雅志
5. 鹿児島のモダニズム歌人・浜田到のリルケ受容　　保坂直之
6. 破壊された市壁―市壁・市門の象徴性に関する一考察―　　中島大輔
7. フリードリヒ・シュレーゲルにおける「有機的構成」の概念―『ゲーテのマイスターについて』および『序説と論理学』を中心に―　　長尾亮太朗

〇会員数（2021 年 10 月 1 日現在）：145 名

ドイツ語教育部会報告

1. 編集

1) 『ドイツ語教育』第 26 号を 2022 年 3 月 20 日に発行した（編集長：鷲巣由美子幹事）．第 26 号では特集「複言語教育と教師」が組まれ，2 本の論考が掲載された．また，編集委員会が定めるテーマについての意見を募るフォーラムのカテゴリーは，「自動翻訳とドイツ語教育」をテーマとし，5 名からの投稿があった．論文が 3 本，研究ノートが 1 本，実践報告が 5 本，書評と新刊紹介が各 1 本掲載された．

2) レジュメの形式について検討し，27 号以降，論文と研究ノートに日独，独英いずれかの 2 言語でレジュメを付すこととした．

2. 部会長

1) 清野幹事とともに，2021 年 7 月 29 日にオンラインで開催された IDV-Vertreter*innenversammlung に参加した．このときに行われた幹事選挙にあたっては，選挙管理委員を務めた．

2) 2022 年 3 月 28 日に，Goethe-Institut Tokyo で行われたドイツ語オリンピック（Internationale Deutscholympiade 2022）国内予選に審査員として参加した．

3. 企画

1) 2021 年 6 月 5 日（土）に Zoom にて教育部会主催講演会（13:25～14:25）およびワークショップ（14:40～15:40）を開催した．
講師：吉村雅仁氏（奈良教育大学）
題目：「初等中等教育における多言語教育実践の成果と課題：複言語教育に向けて」

2) 2021 年 9 月 4 日（土）15:00～17:00 に Zoom にてオンラインイベントを開催した．
講師：岩居弘樹氏（大阪大学）
題目：「オンライン授業におけるテストと評価―いつ，どこで，何を，どのように―」

3) 2021 年 11 月 7 日（土）14:30～18:30 に Zoom にてワークショップを開催した．
講師：Elbers, Mascha 氏（Goethe-Institut Tokyo）
題目：„Tipps für einen interaktiven Online-(Live)-Unterricht“

4) 2022 年 2 月 18 日（金）に第 9 回 JaF-DaF フォーラムを JaF-DaF Forum 実行委員会が主催，そして本部会が共催となり開催した．

4. 高等学校

1) 2021 年 10 月 9 日に高独研秋ゼミとして，日本外国語教育推進機構（JACTFL）主催のオンライン特別講演会「日本の大学教育の未来を考えるー「大学入試のあり方に関する検討会議の議論」からー」（演者：関西大学理事長　芝居敬司先生）への参加を会員に周知し，引き続き講演会終了後にオンライン交流会を開催して上記テーマについて情報交換，議論した．

2) 2021 年 11 月 14 日に行われた「第 23 回獨協大学全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」に，高独研から能登慶和会長が審査員をとして参加した．

3) 2022 年 3 月 28 日に Goethe-Institut Tokyo で行われた国際ドイツ語オリンピック（Internationale Deutscholympiade）2022 国内選考会に，高独研から能登慶和会長が審査員として参加した．また，当日行われた応募者によるプレゼンテーションおよび表彰式の参観を高独研会員に周知して参加を募り，高独研の春ゼミとした．引き続き，参加した会員と共に新学習指導要領についてのセミナーを開催し，情報交換および議論を行った．

4) 『高等学校ドイツ語教育研究会会報』第 32 号を 2022 年 3 月に発行した（編集長：出縄祐介）．

5. 大学入試問題検討委員会

1) 独立行政法人大学入試センターからの依頼に基づき，大学入試問題 検討委員会は，「令和 3 年度大学入学共通テスト（ドイツ語）の試験問題に関する意見・評価」（本試験および追試験）を太田達也部会長の名義で作成し，2022 年 2 月 25 日付けで大学入試センターに提出した．評価書の作成は，太田達也部会長の他，野村幸宏幹事，田中雅敏幹事，牛山さおり，山田香織の各委員が担当した．

2) 2021 年日本独文学会春季研究発表会 1 日目と 2 日目に予定していた 2021 年度大学入試問題の展示は，学会がオンラインで開催されたことに伴い，実施が困難となり，中止とした．

6. ドイツ語教員養成・研修講座

日本独文学会および東京ドイツ文化センターとの共催で開催されている「ドイツ語教員養成・研修講座」は，2019 年～2021 年期は，2021 年 9 月をもって終了した．2021～2022 年期は 2021 年 10 月よりオンラインで開催されている．参加者は 22 名である．

7. IDV

コロナウイルス感染拡大のため，2021 年夏にウィーンで開催が予定されてい

た IDT（Internationale Tagung der Deutschlehrerinnen und Deutschlehrer）は 2022 年 8 月 15 日〜8 月 20 日に開催されることとなった．開催地は変更なし．

会員数（2022 年 2 月 2 日現在）は，正会員 445 名，準会員 76 名，賛助会員 10 団体の計 531 名／団体である．

（文責：境一三）

ドイツ語学文学振興会より

第 62 回ドイツ語学文学振興会賞選考について

第 62 回ドイツ語学文学振興会賞は，Info-Blatt 編集時において審査委員会で審議中です。審査結果が判明し次第，ドイツ語学文学振興会ウェブサイト（http://www.dokken.or.jp/foundation/）でお知らせする予定です。なお，授賞式は春季研究発表会初日（5 月 7 日）11 時 20 分（予定），学会会場にて開催いたします。多くの学会員の皆さんが参列し，受章を祝っていただきたく存じます。

なお，本賞の趣旨は日本国内における若手のドイツ語学文学研究者による優れた業績の発掘にあります。しかし近年『ドイツ文学』以外の研究誌に掲載された論文の応募が少なくなっており，授賞にふさわしい研究が埋もれていることが懸念されます。

そこで振興会としましては，日本独文学会会員からの積極的なご推薦をお願いしたく存じます。ご指導に当たられていたり，お知り合いでいらっしゃる若手研究者の優れた論文をお目にされましたら，是非ご推挙ください。

（文責：武井香織）

大学院 Germanistik 関係博士論文題目

2022 年 3 月 20 日から 2022 年 4 月 14 日までに本学会 HP の「博士学位取得情報登録フォーム」に届け出があった情報を，執筆者ご本人の申告に基づき掲載します。

※大学名および氏名は 50 音順です。
※掲載対象は本学会員の情報のみです。
※取得年はいずれも 2022 年です。
※詳細については，下記サイトをご参照ください。
https://www.jgg.jp/mailform/prom/prom_ich.php

九州大学

大澤遼可：ノヴァーリスにおける統合的感官としての「眼」 ――「自己感覚」から「心情」へ――

京都大学

橋本紘樹：初期ドイツ連邦共和国における知識人の諸相――アドルノ，ハーバーマス，そしてエンツェンスベルガー

横道誠：グリム兄弟とその学問的後継者たちに関する研究

立教大学／Universität Freiburg (Schweiz)

宮島章子：Regionalität in Johann Jakob Bodmers Übersetzungen von Miltons Paradise Lost — Von der diatopischen zur diastratischen Profilierung —

あとがき

「ニュースレター」2022 年春号（Info-Blatt 第 6 号）をお届けします。各種のご報告ならびにご案内をお寄せいただいた皆様，ありがとうございました。引き続き，学会内での情報共有に向けてご協力いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。

庶務担当理事　高橋亮介

編集
一般社団法人 日本独文学会庶務委員会
井出 万秀（委員長）
大野 寿子（編集担当）　高橋 亮介（編集担当）　中野 英莉子（編集担当）
西尾 宇広（編集担当）　馬場 大介（編集担当）　藤縄 康弘（編集担当）

編集・発行
一般社団法人　日本独文学会
170–0005 東京都豊島区南大塚
3–34–6 南大塚エースビル603
電話03–5950–1147
振替00160–9–135018
E-Mail（メールフォーム）：
http://www.jgg.jp/mailform/buero/

ニュースレター2022 年春号
JGG-Info-Blatt / Frühling 2022
2022 年 4 月 23 日発行